

糖尿病性腎症の实地臨床に 役立つ内容を網羅

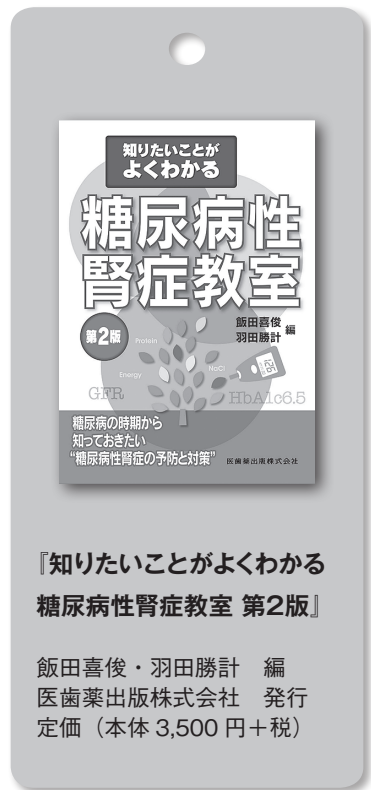
稲葉雅章 *Inaba, Masaaki*

大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分沁病態内科学

『糖尿病性腎症教室』の初版が世に出たのが平成15年であり、その後の糖尿病患者数の増加とともに、糖尿病性腎症はますます増加し、透析導入の原因疾患の第1位である。最近、慢性腎臓病 (chronic kidney disease : CKD) という概念の普及とともに、血管障害リスクとしてのCKDが認知されてきている。一方、糖尿病性腎症では、全身の血管障害進展が腎臓でも同様に進行した結果であり、因果関係が逆転する。この前提に立って今回改訂された第2版では、糖尿病性腎症の病態生理、進展阻止、合併症対策についての具体的な記述とともにその考えかたが最新の知識に基づいて紹介されている。

第1章では、CKDの概念とステージ分類、糖尿病性腎症の病期分類との相違について、第2章ではHbA1c値を用いた新規の糖尿病診断基準、糖尿病合併症を急性・慢性に分けたうえで、それら合併症の発症・進展防止について紹介されている。第3章では、糖尿病性腎症の早期診断基準、進行例での病期分類、また腎生検が必要となる患者の具体例、腎組織像まで詳述されている。第4章では、糖尿病性腎症の発症・進展機序を紹介し、それらに対応する治療薬の選択について具体的に示されて

いる。第5章では、糖尿病性腎症の進行に応じた臨床症状や、腎症と同時相で進行する網膜症、神経障害、大血管障害について記述されている。第6章では、糖尿病性腎症での検査異常を詳述し、臨床検査項目の選択に有用となる。第7章は食事療法、第8章は薬物療法についてきわめて詳しく具体的に書かれている。食事療法では具体的な食品を挙げ、それぞれの栄養上の問題点、具体的な栄養処方や対応、治療用特殊食品まで触れられているため实地臨床上有用となる。さらに、腎症病期に応じた具体的な栄養指導の実際を詳述している。薬物療法も、血糖コントロール、血圧、脂質異常症、貧血に対する治療概念、使用法や注意点を具体的に記載している。最新のインクレチン関連薬や腎不全期での注意薬剤についても記述され、薬剤使用につき総括可能な構成となっている。第9章では、日常生活上の具体的な注意点が示され、日常的なアドバイスをを行ううえで大いに参考となる。第10章では、糖尿病性腎症が進行したときの透析導入基準、透析法、透析導入後の問題点・注意点について網羅的に記載してあり、糖尿病透析患者の診療に有用なだけでなく、保存期患者に対する透析の説明を行ううえで有用な内容となっている。



『知りたいことがよくわかる 糖尿病性腎症教室 第2版』

飯田喜俊・羽田勝計 編
医歯薬出版株式会社 発行
定価 (本体 3,500円 + 税)

第11章では腎移植に関して、最終章では糖尿病性腎症患者の心理的・経済的問題にも触れられ、患者会や各種助成制度などについても述べられている。

まさに本書の『糖尿病性腎症教室』のタイトルのように、本書を一読すれば糖尿病性腎症を網羅的に理解できる内容となっている。患者個々の問題点や食事・薬物に関して具体的な記述がなされており、实地臨床にただちに役立つ内容になっている。糖尿病性腎症の診療を行っている医師・看護師・栄養士・薬剤師ばかりでなく、学生や一般の人でも糖尿病性腎症を理解しやすく、実践的な内容である。本書を一読いただき、実践していただくことが、今後の糖尿病性腎症の発症・進展抑制、糖尿病透析患者の減少に大きな役割を果たしうることを確信する。